

# 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク 基本計画



2018年 5月 策定

2023年 5月 改定

目 次	頁
<b>第1章 計画の策定にあたって</b>	
1. 計画の目的	… 2
2. 計画の期間と対象エリア	… 2
(1)計画期間	… 2
(2)対象エリア	… 2
<b>第2章 活動の方針と活動計画</b>	
1. 基本方針	… 4
2. 活動計画	… 4
(1)保護・保全活動について	… 4
(2)研究・教育について	… 5
(3)地域振興について(ツーリズムの推進)	… 6
(4)情報発信について	… 6
(5)リスクマネジメントについて	… 7
(6)持続可能な発展への寄与について	… 7
(7)ネットワーク活動について	… 8
(8)ジオパークとエコパークの活動の両立について	… 8
<b>第3章 推進体制</b>	
1. 協議会の運営組織	… 9
2. 幹事会・事務局・部会の役割	… 9
(1)幹事会・事務局	… 9
(2)学術部会	… 9
(3)教育部会	… 9
(4)観光部会	… 10
(5)各市町村部局	… 10
3. 推進体制のイメージ(組織図)	… 10

# 第1章 計画の策定にあたって

## 1. 計画の目的

本計画は、長野県飯田市、伊那市、大鹿村をエリアとする「南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク」に存在する地質遺産を、地域住民、関係団体、企業、行政が共同して保全すると共に、学習や教育への活用、観光資源と連携したジオツーリズムを構築して地域振興に寄与することを通じて、持続可能な地域社会の発展を目指すための計画です。

## 2. 計画の期間と対象エリア

### （1）計画期間

本計画の期間は、8年間（2018年度から2025年度）とします。4年ごとの再認定審査及び審査結果を踏まえたうえで、見直しを行うことを基本としますが、社会情勢の変化や事業の評価等を踏まえ、必要に応じ見直しを行うこととします。

### （2）対象エリア

長野県、山梨県、静岡県にまたがる南アルプスのうち、長野県側の範囲（飯田市、伊那市、大鹿村、富士見町）が、2008年（平成20年）に日本初のジオパークのひとつ「南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク」として認定されました。本計画はこの「南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク」を対象エリアとします。

南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク エリア図



## 第2章 活動の方針と活動計画

### 1. 基本方針

「保護・保全」「研究・教育」「地域振興」を活動の3本の柱とします。南アルプスの大地、地形、生態系を、その価値が失われないよう守り、その優れた価値を研究教育活動により広く発信することで、ひいては地域住民が地域の魅力を知り、誇りを持ち、地域の活力を生み出し、地域振興につながるよう活動していきます。

### 2. 活動計画

#### (1)保護・保全活動について

○南アルプスには、カール地形や様々な岩石が見られ、ライチョウやシナノコザクラをはじめとする希少な動植物が多く生息・生育しており、国立公園に指定されています。また、国の特別天然記念物であるライチョウが、南アルプス南部の上河内岳、茶臼岳、イザルガ岳まで生息し、世界南限の生息地とされています。このような貴重な動植物を保全、保護していくために、鹿の食害対策や外来植物の対策、登山者のマナー向上のための啓発活動等に取り組みます。

○科学的な根拠に基づいて、地形・地質・生態系の価値が失われないよう学識者や地域と協働して、ジオサイトの保護・保全、案内板の設置、維持管理等を行います。また、各種法令を遵守し、有識者の指導のもとに、地元住民の理解と協力を得ながら進めます。

○マイカー規制等を適切に実施し、自然環境の保護に努めます。



ライチョウ

## （２）研究・教育について

- 学術調査研究を推進するとともに、公表、公開することで学術的価値の普及啓発を行います。また、学校教育や社会教育の場に、ジオパークを身近に感じることができる学習の機会を提供します。
- 小・中学校及び高等学校の授業等の学習活動において、ジオパークを地質や生物、天文気象など自然現象を体験的に学ぶ場とするとともに、自然災害への関心を高めるための防災教育に役立てます。
- 生涯学習の場である公民館活動において、ジオパークが自分達の生活に関わりがあることを学習するため、一般市民を対象とした各種講座にて学習の機会を提供します。
- 国立信州高遠青少年自然の家では、自然散策、地学的な観察、自然体験活動に取り組み、自然に囲まれた広大な施設を利用したジオツアーや各種講座を開催します。
- 飯田市美術博物館、大鹿村中央構造線博物館、伊那市創造館では、講演会や自然講座を開催します。また、県内外の団体が主催する現地学習会、自然探索ツアー、講演会等の講師を務めます。
- 美術館・資料館等の拠点となる施設（飯田市美術博物館、大鹿村中央構造線博物館、伊那市創造館、ビジターセンター、旧木沢小学校資料館、ハイランドしらびそ展示室、和田城展示館 他）においては、見学者が容易に理解できるように常設または企画展示を行います。



小学校ジオツアー（伊那市）



ハイランドしらびそ展示室（飯田市）

### **(3)地域振興について（ツーリズムの推進）**

- 市村（行政）と観光協会等の関係団体等が協力して、ジオツーリズムの振興を図ります。
- ジオツーリズムを通じて、大地を中心とする自然、地域の特性から育まれた生活や歴史文化を観光と融合させ、観光誘客を推進します。
- 来訪者により楽しんでいただけるよう、ガイド養成講座を開催し、ジオパークガイドの養成を行います。併せて、養成講座を受講し認定ガイドとなった後も、研修会等を開催し、スキルアップができるような機会を設けます。
- 旅行者のニーズの把握に努め、ツアーの企画やイベントの開催へ活かします。また、観光関係事業者との連携を図ります。
- ジオパークの拠点として既存の施設を活用し、南アルプスの歴史やそこに育まれた動植物等の生態を学ぶことができる展示や体験コーナーを充実させ、来館者を現地へ誘導する情報を提供する場とします。
- ジオパークをより楽しめるよう、大地と人をつなぐジオストーリーを構築し、ジオツーリズムに活かします。

### **(4)情報発信について**

- 多くの方に訪れていただけるよう、年齢や目的、言語等を考慮し、親しみやすいパンフレットの作成や配布、看板の作成等を行います。
- 新聞、テレビ、ラジオ等メディアへ情報提供をすることで情報発信を行います。
- 来訪前はもとより、来訪時にも活用しやすいように、ホームページの利便性の向上を図ります。
- SNSの利用者が増加していることから、フェイスブックを利用した情報発信を行うとともに、他のSNSの活用についても研究します。
- 各種イベントの開催に合わせて、パンフレットや啓発物品（ノベルティ）の配布等を行い、ジオパークの普及啓発活動に努めます。
- ジオサイトや観光資源を分かりやすく解説する看板、案内板の整備に努めます。

## (5) リスクマネジメントについて

- 当ジオパークはその特性上、落石、倒木、土砂災害といった自然災害に見舞われる場合がありますが、関係機関が随時点検を行うことでリスクを軽減し、来訪者が安全に見学できるように対策を講じます。
- 南アルプス林道では、マイカー規制による交通安全対策を行います。また、林道バスの運行にあたっては、毎日運行前に林道の点検作業を行い、落石等が発生した際は早急に通報し、除去作業等の安全対策を講じます。
- 入笠山では、マイカー規制と冬期間の通行止めにより、周辺地域地の交通安全対策を講じます。
- 遠山川溪谷沿いの登山道は、北又渡付近でゲートを設けて一般車を通行止めにし、公共交通により登山者を送迎する体制を整え、安全対策を講じます。
- 遠山郷では、しらびそ高原と下栗を結ぶ循環道路2ヶ所にゲートを設け、4月中旬から11月上旬を開門期間とし、来訪者が安全に観光できる安全対策を講じます。
- ガイド活動等、活動の推進に際しては、保険への加入等必要に応じた対策を講じます。
- 近年の登山ブームによる登山客の増加により、経験不足の登山者が増加傾向にあるため、登山計画の提出や地図の携行を求める等、登山者の安全確保につながる啓発に取り組みます。

## (6) 持続可能な発展への寄与について

- 生涯学習や学校教育においてジオパークの活動を積極的に取り入れます。特に、子どもを対象とした講座や授業では、地球科学に対する興味・関心を高め、地域と連携し、地域の魅力を学ぶことで郷土愛を醸成します。
- 当ジオパークには、シビエや中尾早生大豆、下栗芋、大鹿村の塩、川下り米等、ジオに由来する食文化や、大鹿歌舞伎や中尾歌舞伎、遠山郷の霜月祭等の祭事といった地域の歴史・文化の見どころが豊富に存在します。これら貴重な財産の魅力を認識し、活用していくことで地域資源の保全につなげていきます。
- 魅力のある選ばれる地域となるよう、ジオパークの活動を地域づくりに活かします。

## （７）ネットワーク活動について

○日本ジオパークネットワークに加盟し、ネットワーク活動を通して他のジオパーク活動等についての情報収集を行います。また、そうした情報を共有し、当ジオパークの活動に活かします。

## （８）ジオパークとエコパークの活動の両立について

○当ジオパークエリアは「南アルプスユネスコエコパーク」エリアと重複しています。これは、静岡県、山梨県、長野県の10市町村（静岡市、川根本町、南アルプス市、北杜市、韮崎市、早川町、飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村）が南アルプスの世界自然遺産登録を目指した活動の中で、2008年（平成20年）に長野県側の4市町村（飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村）が日本ジオパークの認定を受け、その後、2014年（平成26年）に10市町村でユネスコエコパークの登録を受けたことによります。ユネスコエコパークとジオパークの共通点としては、地域の自然を保護・保全し、その資源を活かして地域振興を進め、持続可能な地域社会を作っていくという仕組みです。しかし、そのベースとなるのは地域の自然に対する科学的な情報の蓄積となるため、ジオパーク活動で収集する地質や地形、土壌、水質等の情報をエコパークの3つの機能である「保存・経済と社会の発展・学術的研究支援」へと活かします。

○当ジオパークは日本で唯一、エコパークエリア内にすべてのジオパークエリアが重複しているジオパークとなります。大地に重点を置くジオパークと生物に重点を置くエコパークの双方の活動による相乗効果を、教育・環境面に活かしていきます。



大鹿歌舞伎（大鹿村）

## 第3章 推進体制

### 1. 協議会の運営組織

ジオパークの関係団体が連携し、その活動を広げ、地域振興に寄与することを目的に、2012年（平成24年）2月に「南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会」を設立しました。

協議会の中に、幹事会、事務局、部会（学術・教育・観光）、を設置し、それぞれの視点で活動を推進します。

### 2. 幹事会・事務局・部会の役割

幹事会、事務局、部会の役割は以下のとおりです。

#### （1）幹事会・事務局

○総会に付議すべき事項等、協議会の運営に必要な事項について協議します。

事務局の設置は、組織を円滑に進行させ、諸資料を整理・保存・活用をしていくことを目的としています。3市村の担当部局、部会、協議会加盟団体等と連携をはかり、JGNとの連絡調整を行います。また、ジオパークガイドの養成のほか、部会と協力しジオパーク事業の企画、運営、推進をはかります。

#### （2）学術部会

○学術調査研究を推進するとともに積極的に公表・公開を行います。看板や案内書の制作・ガイド養成・講演・ツアー案内などにおいて、学術的な内容を一般向けにわかりやすくするための活動を推進します。

#### （3）教育部会

○上下伊那教育会や公民館、博物館等と連携し、学校教育と社会教育の場にジオパークの学習を積極的に取り入れていけるような活動を推進します。事業の推進に際しては、学術部会とも連携し、

対象者にわかりやすく魅力あるものを提供します。

#### (4)観光部会

○観光コースの設定やツアーの造成、情報発信等、誘客に資する活動を推進します。事業の推進に際しては、他の部会と連携し、来訪者（観光客）に魅力ある商品を提供します。

#### (5)各市村部局

○各市村の担当部局は、ジオパーク活動における行政側の窓口としての役割を担うとともに、自市内の教育、環境、観光等の関係部局や関係団体との調整を行います。  
○3市村で協力し、自治体間の調整を行うことで活動の円滑化を図ります。

### 3. 推進体制のイメージ(組織図)

